

# 測ること・活かすこと

- 第2回 -

藤原 靖也  
(ふじわらのぶや)

「大学進学率」は  
上がったけれど・・・

では、なぜ大学に行く人が多くなったのでしょうか？不思議に思いませんか？

その本質を突く記述があります。あの有名な教育学者の言葉です。

「その理由のひとつは大体において、教育が「地位財」だからだ。」

この言葉のウラには、大学を卒業している人には一定の知的価値がある、という「シグナル（お墨付き）」が付く、という前提があります。たとえ能力が伴っていないとしても。そして、政府は大学に力点を置いて大学進学率・卒業率を重点的に測っているのです。

しかし、この言葉には怖い続きがあります。「学士号を持っている人の割合が高くなればなるほど、その価値は低くなる。そうなると、それまでは高卒資格しか要らなかつた仕事でも、学士号が必須となってくる。それは・・・仕事

日本の大学進学率は上昇し続けています。今の大学生にあたる19歳〜22歳の人口が一番多かったのは1993年ですが、その時の大学進学率は25%程度でした。それが、2009年にはじめて50%を超え、その後も上昇し続けているそうです。

その中で、一方では高い目標を目指している学生がたくさんいます。他方、学修をしないのに「卒業させてくれ」と言う学生の方が複数いるのも事実です。卒業（＝学士号を取ること）が手段ではなく目的になっている学生が複数いるということです。

「学士号を持つている人の割合が高くなればなるほど、その価値は低くなる。そうなると、それまでは高卒資格しか要らなかつた仕事でも、学士号が必須となってくる。それは・・・仕事

が高度になったのではなく、ほかでもない採用側が学士号を持っている求職者の中だけから選び、ほかは排除できるようにになるからだ。」

つまり、大卒自体が価値を持つのは、大卒者が少数派である場合のみだという事です。

それが過熱し行き着く先は何か？

それは「少しでもいい大学の学士号」という地位をめぐる激しい競争です。そう考えると、韓国や中国では日本でいう「大学入試センター試験」で警察・救急が動員されるような事態になることも、合点がいくでしょう。仕事については大卒が有利だという認識が広まるにつれ、大学で学修する・しないに関わらず、ますます多くが少しでもいい大学の学士号を求めるようになっていくのです。

ある有名な教育学者は、こう結論付けています。「大卒者を増やすことがより高い生産性を意味する」という考えは、誤った推論だ。」と・・・私も、その通りだと思っています。実際に、1970年代から30年以上にわたり、日本の労働生産性は主要7か国（G7）のなかですつと最下位のままです。一度も6位にも上がったことはありません。

それにもかかわらず、政府は、大学進学率と卒業率を上げることが狙い、それらの測定を実施することに力点を置いています。批判はしませんが、政府は重点的に測る対象を取り違えていると思わざるを得ません。

(和歌山大学経済学部 准教授 博士(経営学))

第118回 わだい浪切サロン

和歌山大学・岸和田市地域連携事業

これからの地域福祉のあり方を考える ▶日時12月18日(水) 19:00  
~ 真の地域共生社会の実現のためにできることは何か~ 20:30

話題提供者 金川 めぐみ氏 和歌山大学経済学部准教授 ▶場所 岸和田市立浪切ホール 1階 多目的ホール

！ わだい浪切サロンとは？ 毎月第3水曜日（2月と8月を除く）の午後7時～  
岸和田市立浪切ホールで開催するmini和歌山大学です。

申込み  
不要

参加費  
無料

お問合せ先 ▶▶▶ 和歌山大学岸和田サテライト 〒596-0014 岸和田市港緑町1-1 岸和田市立浪切ホール2階  
電話/FAX: 072-433-0875